

試 験 地 設 定

(様式1)

区分 任意

日向 営林署

開発課題	広葉樹天然林の効果的択伐法				期間	自67年度 至65年度	
開発目的	森林の公益的機能と企業的機能の調和により資源の有効活用を図るため効果的 択伐法を深究する。						
設 定	場 所	営 林 署	担 当 区	国 有 林	林 小 班		
		日 向	尾前第2	三ノ谷	105.1		
	数 量	面 積	数 量				
		(見立) 5.00					
	設 定 年 月 日	シ 67. 4	終 了 年 月 日	シ 65. 12			
	担 当	営 林 局	課 係				
		営 林 署	経 営 課 造 林 係				
地況及び 気 象	標 高	方 位	傾 斜	基 岩	土 壤 型	土 性	
	1,000m 1,100~1,500	N E	20°	砂岩	B D	圃行土	
	深 度	堅 密 度				地 位	
	40cm	中				スギ	ヒノキ

林 令	林 種	樹 種	混交率	胸高直径	樹 高	材 積	本 数	相対照度	下層植生
	天然林	ブナ シノキ カエデ ミズナ シデ ハリギリ その他	25 11 5 4 4 0 4	18	15	218	1,662		
		モミ ツグ	2 2						
設 定 前 の 施 業 経 緯	天然林を伐採し、拡大造林を図ってきた。年々森林の公益的機能が高まってきており木材の需要の動向等、広葉樹資源の保存造成、育成の国民的要望が高まっている。								
全 体 計 画	<p>現存する広葉樹資源の有効利用を図るため利用径級以上の立木を択伐し未利用径級の有用広葉樹を残し、育成する。手段として択伐方法の検討及び稚樹の発生の環境造り、保育方法の検討を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 択伐方法の検討(群状・帯状) 2. 搬出方法の検討 3. 保存広葉樹資源の育成及び造成 <ul style="list-style-type: none"> ア、スズメケの刈払機による天下、ボウヤ更新の検討を行う 4. 保育方法の検討 4. 択伐区の植生調査と成長量調査を行う。 								

記載要領 1. 区分は指示、自主、任意課題別とする。
2. 全体計画欄は年度別、実施事項及び目標、また、林試等の指導関係を記入する。

試験地設定

区分 任意

日向 常緑

(様式2)

実施計画

61年度

1. 伐区の設定 (架線区域等の検討)
2. フロット調査
3. スズヤケの刈払

62年度

1. 新植 (皆伐区)
2. 択伐区の椎樹発生調査
3. 〃 の残存木調査

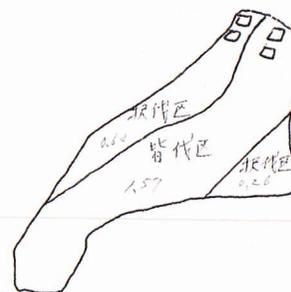
63年度

1. 択伐区の椎樹発生調査
2. 残存木の成長量調査

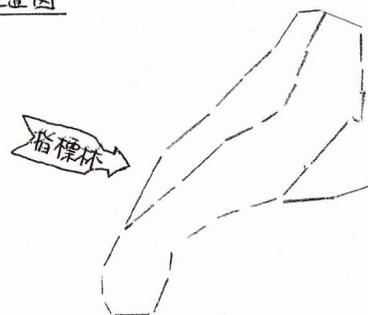
64、65年度

同上の調査

試験設定図



試験地位置図



135 (4) (定)

課	新規 別 継続	継 続	経常・特別別	件 意	担	開 発 箇 所	日 向	期	昭和 61 年度	予	技	經 費	品 名	数 量	単 価	金 額
			目標との関連						昭和 65 年度							
題	広葉樹天然林の効果的採伐法		当				(尾前カ2)									
目	森林の公益的機能と企業的機能の調和により、資源の有効活用を図															
的	その効果的採伐法を探究する。															
全 体 計 画			実 施 経 過			当 年 度 分										
						実 施 計 画					実 施 結 果			評価および普及計画		
<p>現存する広葉樹資源の有効利用を図るため、利用径級以上の立木を採伐し未利用径級の広葉樹を保護し育成する。</p> <p>手段として、採伐方法の検討及び稚樹の発生環境造り、保育方法の検討を行う。</p>						<p>昭和61年度</p> <p>1. 収穫調査</p> <p>2. 試験地設定</p> <p>3. 又又竹刈払い</p>					<p>1. 収穫調査</p> <p>昭和61年9月</p> <p>2. 設定場所</p> <p>三方界国有林 135.1 林1班</p> <p>3. 面積 2.46 ha</p> <p>4. 又又竹刈払い</p> <p>昭和61年11月</p>			<p>現地に有用広葉樹の少ないため、少々の補植を(300本/ha程度)計画し、林分の充実を図る。</p>		

(様式4) ~ /

課題

広葉樹天然林の効果的採伐法

天然林を伐採し、拡大造林を図ってきたが、年々森林の公益的機能が劣化し、併せて木材需要の動向等、広葉樹資源の保存・造成・育成の国民的要請に添えるため、採伐方法の検討を行う。

1. 採伐方法

(1) 皆伐区と帯状(両サイド型)の組合せ伐採をとり、この収穫調査を61年9月実施。

面積	皆伐区	1.57 ha
	採伐区	0.89 ha
	計	2.46 ha

調査人員 80人 (20人/ha有り)

2. 保存広葉樹資源の育成及造成

(1) スズ竹の刈払

(2) プット内のスズ竹刈払の実施

(3) プット外は62年度実行予定

昭和61年度 技術開発実施報告書

熊本営林局

(任意課題)

課 題	新規 別 継続	新規	経常・特別別	経常	担 当 課	開 発 箇 所	日 向	期 間	昭和 61年度 ～ 昭和 65年度	予 算 科 目	造 林 費 (育 林)	経費	品名	数量	単価	金額
			目標との関連	1～ア												円
		広葉樹天然林の効果的択伐法										物件費	調査用品			
												役務費	現像・その他			
目的		森林の公益的機能と企業的機能との調和をはかり、資源の有効活用を図るため効果的択伐法を探索する。										人件費	(基 臨 職 時)	()		(~) (~)
												計	～			(~)
全 体 計 画		実 施 経 過				当 年 度										
						実 施 計 画			実 施 結 果			評 価 お よ び 普 及 計 画				
I. 昭和61年度 1. 試験地伐区設定 2. プロット設定 3. 調査事項 (1) 収穫調査 (2) 土壌調査 (3) 植栽調査 4. スズ竹刈払 5. 立木伐採(処分)						1. 試験地伐区設定 (1) 架線, 区域の検討 2. プロット設定 3. 調査事項 (1) 収穫調査 (2) 土壌調査 (3) 植生調査 4. スズ竹刈払 5. 立木伐採(処分)			1. 試験地設定 2. プロット設定 3. 収穫調査 4. スズ竹刈払							
II. 昭和62年度 1. 新植(皆伐区) 2. 択伐区の稚樹発生調査 3. 択伐区内残存立木調査																
III. 昭和63～65年度 1. 択伐区稚樹発生調査 2. 残存木の生長量調査																

広葉樹天然林の効率的採伐法

1. はじめに

広葉樹資源の有効利用を促すため、利用径級以上の立木を採伐して未利用径級の有用広葉樹を残し、その生育状態と稚樹発生調査を行い、採伐の方法、人工補正方法等、皆伐採伐体系を確立する試験を試みた。

非

2. 試験地設定

(1) 設定

昭和61年度

(2) 場所

宮崎県東臼杵郡椎葉村 三才界国有林 135の林班

(3) 面積

2.46 ha

(4) 地況

標高130m 方位N.E 傾斜30° 土壌型BD

(5) 林況

ガシ、シカエ、カエデ、ミズメその他広の材齢145年生の天然林

(6) 設定方法

昭和61年度椎葉村標準地と採伐区面積0.60 haと

0.26 haの2採伐区を設定し試験地とした。

図-1の如く採伐区の中間にあり皆伐区面積1.57 haを対照区として設定した。

1. 20x20mの設定

採伐区に標準地面積25m²(5m×5m)を2ヶ所設定した。

皆伐区に標準地面積25m²(5m×5m)を2ヶ所設定した。

図-1

試験設定図

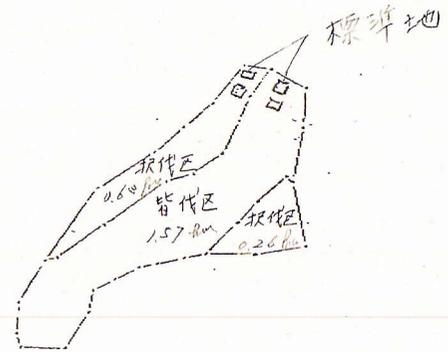
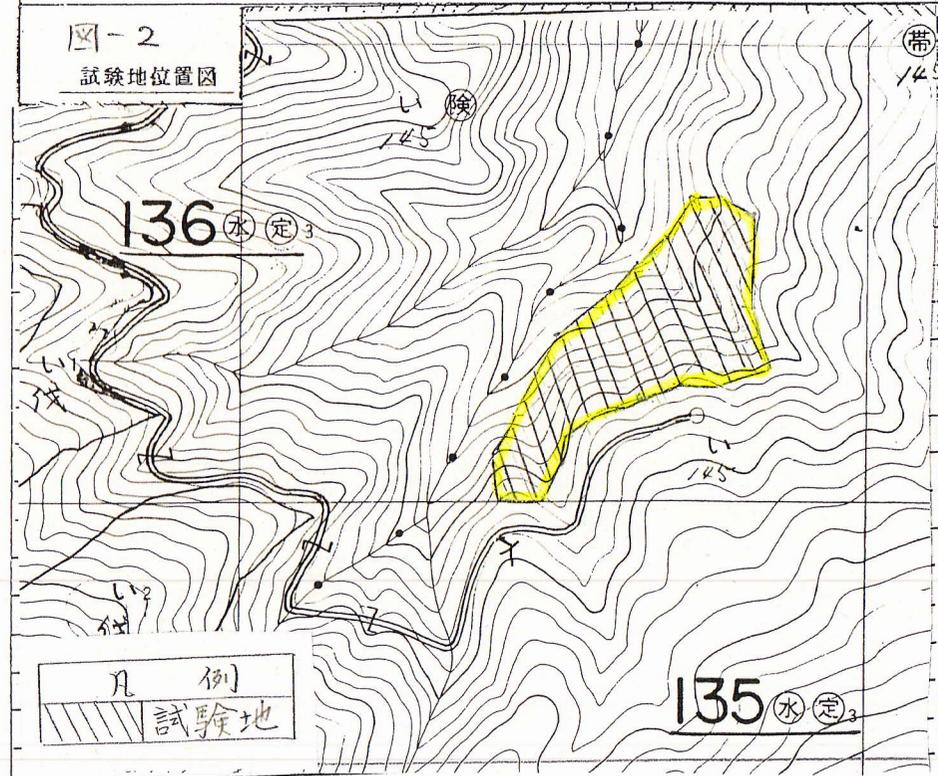


図-2

試験地位置図



課題名	広葉樹天然林の効果的択伐法					
課題区分	任	意	開発期間	1961~65	担当	造林課
目標	森林の公益的機能と企業的機能との調和をはかり、資源の有効活用を図るため効果的択伐法を探索する。					
結果	森林の公益的機能と企業的機能を考慮し、皆伐区と択伐区を組み合わせて収穫することにより、森林の有効利用及び施設費の重複投資をなくし、効果的施業による卒業化試験に取り組んだところであるが、施業計画の見直しにより試験内容を変更せざるを得なくなり、試験地がその目的を充分果すことが期待出来なくなったので試験を中止する。					
施業及び作業内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
	伐採の方法	皆伐・択伐	傾斜	30°		
	樹種	ブナ広	土壤型	B D		
	林齢	145年				
	胸高直径	18cm				
	樹高	15m				
	1ha当たり本数	1,662本				
	材積	316m ³				
	面積	2.46				
標高	1,000m					
方位	NE					
開発経過と調査内容						
<p>1. 拡大造林と天然林施業を取り入れ、経済的かつ森林の公益的機能の充実をはかるため小面積皆伐区と択伐区を組合せた1収穫区域を設定し、拡大造林を計画した。</p> <p>2. 皆伐面積1.57ha、択伐面積0.89haを設定した。(61.9)</p> <p>1). 標準地0.42haを設定し、スズナノ刈払いを行なった。(2.0/ha当)</p>						

2. 施業計画の変更等で皆伐区の1ha当り単価が100万円以下のため、(択伐の販売額を加えると100万円以上である。)新植を計画しないよう指示があったので、拡大造林を断念せざるを得ないため試験を中止し、昭和62年度より保残ホ施業指標林として保存する。

評価及び普及指導

課 題

広葉樹天然林の効果的採伐法

天然林を伐採し、拡大造林を図ってきたが、年々森林の公益的機能が劣化し、併せて木材需要の動向等、広葉樹資源の保存・造成、育成の国民的要請に依るため、採伐方法の検討を行う。

1. 採伐方法

(1) 皆伐区と帯状(両サイド型)の組合せ伐採をとり入れ収穫調査を61年9月実施。

面積	皆伐区	1.57 ha	(357 m ³ /ha当り)
	採伐区	0.89 ha	(71 m ³ / ")
	計	2.46 ha	(250 m ³ / ")

調査人員 80人 (20人/ha当り)

2. 保存広葉樹資源の育成及造成

(1) スズ竹の刈払い

(2) プラント内のスズ竹刈払い実施 (8.0^/ha当り)

(4) プラント外は63年度実行予定